

科学技術教育普及活動のあゆみ

1 サイエンスカー訪問活動(事業開始:昭和43年度)

年度	経 過	
昭43 (1968)	・初代サイエンスカー「コスモス号」が富山県理科教育センターに配置される	◎最新機器等の展示 ◇エネルギー科学セット ◇生活科学セット
昭45 昭48	・山間地等の小規模小中学校、社会教育団体等への訪問を開始 ・文集「こすもす」第1集発行 ・富山県科学教育センターと改称 ・センター自主開発教材による実験教室を試行	◎科学映画の上映 ◎「火の正しい使い方」等9テーマ
昭49 (1974)	・センター自主開発教材による科学教室を開始	◎科学教室(児童生徒対象) ◇環境保全に関するもの ◇学習システムに関するもの ◇情報処理に関するもの ◇科学技術に関するもの
昭51 昭53	・可動式プラネタリウムがトヨタ自動車より寄贈される ・2代目「コスモス号」に更新	◎教育機器の活用法(教員対象) ◎科学映画の上映
昭57 (1982)	・富山県総合教育センター第二研修部に改組 ・訪問対象を小中学校児童生徒とする(社会教育団体等では中止)	◎科学教室(内容改訂) 学年別に理科工作や観察・実験等の学習テーマを設定する。 ◇小学校 ・低学年、中学年、高学年 ◇中学校
昭62	・訪問対象を12学級以下の小学校とする	
平2 (1990)	・対象を6学級以下の小学校とする	◎科学教室(内容改訂) 一人一人が積極的に取り組むことができる理科工作や観察・実験等の学習テーマを設定する。
平6	・第二研修部を科学教育部に改称(文集「こすもす」平成2、4、6年度発行中止)	
平8 平9	・対象を6学級以下の小学校とする(ただし、前年度訪問校を除く) ・可動式プラネタリウムを更新 ・3代目「コスモス号」に更新	・低学年(しゃぼん玉遊び、笛作り等) ・中学年(熱気球作り、噴水遊び等) ・高学年(星の学習、電磁石遊び等)
平14 (2002)	・科学教育部を科学情報部に改称	◎科学教室(内容改訂) ・中、高学年を主な対象とする
平15 平19	・対象を児童数100名以下の小学校とする(15校募集)	◎科学教室(内容改訂) ・低、中、高学年を対象とする
平20 平25	・対象を児童数120名以下の小学校とする(10校募集) ・感想文集「こすもす」第43集発刊	◎児童の学習テーマに4テーマを新規に設定する。
平26	・感想文集「こすもす」第44集発刊 ※延べ参加児童数 205,910名(延べ訪問校 2,029校)	

2 理科実験・観察訪問研修(事業開始:平成14年度)

年度	経 過	
平14 (2002)	・理科実験・観察巡回研修を開始(サイエンスカー訪問校20校、巡回研修のみ10校)	
平15	・募集校変更(サイエンスカー訪問校15校、巡回研修のみ15校)	
平19	・募集校変更(サイエンスカー訪問校10校、巡回研修のみは理数大好き地域モデル事業指定校対象)	
平20	・募集対象変更(サイエンスカー訪問校10校、巡回研修のみは希望する市町教育センター等と協業で、対象市町センター管内小学校教員の希望者)	◎研修テーマ ・実験・観察における教材・教具の基本的な取り扱い ・教科書と関連する実験・観察 ・たのしいものづくり ・教科書の実験を成功させる方法
平23	・理科実験・観察巡回研修を理科実験・観察訪問研修に改称	◎研修テーマを精査。
平26	※延べ参加教員数 6,171名(延べ訪問機関 302箇所)	① 授業で使える楽しい教材・ものづくり(25テーマ) ② 実験・観察における教材・教具の基本的な取り扱い(4テーマ) ③ 教科書と関連する実験・観察(11テーマ) ④ 教科書の実験を成功させる方法(7テーマ)